

2018. **7**
No. **192**

調査レポート

県内勤労者の消費・貯蓄動向 ～第59回くらしのアンケートから～

要	約	1
1	家計の状況	3
2	耐久消費財の購入状況	4
3	外食	6
4	貯蓄	7
5	ローン等の利用	9
6	夏季ボーナス	10
7	お中元	12
8	夏休みの過ごし方	14

要 約

1. 家計の状況

- 1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が7.9%、「悪くなった」が12.7%、「変わらない」が79.4%。「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△4.8となり、昨夏(△8.1)と比べて3.3ポイント改善。県内景気は、機械工業が増勢を維持するなど生産面を中心に緩やかな回復が続いている。このようななか、勤労者の暮らし向きも緩やかながら上向いてきている。なお、年代別では若年層に比べて中高年層で暮らし向きの改善実感が乏しい。
- 家計上の悩みは「収入の伸び悩み」が最も多く、以下、「税金負担増」、「物価上昇」の順。2位の「税金負担増」は昨夏に比べて比率が低下したものの、1位の「収入の伸び悩み」と3位の「物価上昇」はそれぞれ上昇。

2. 耐久消費財の購入状況

- 耐久消費財の普及状況は、「テレビ」、「スマートフォン」、「パソコン」、「ETC」の順。
- 今後半年以内に購入希望のある耐久消費財は「ハイブリッドカー」が最も多く、以下、「スマートフォン」、「ロボット掃除機」、「パソコン」、「空気清浄機」の順。

3. 外 食

- 月3回以内の利用が過半数を占め、平均利用回数は2.3回と、昨夏から若干減少。
- よく利用する店舗は「ファミリーレストラン」が最多で、以下、「日本料理店」、「ファーストフード」、「大衆食堂」の順。

4. 貯 蓄

- 平均貯蓄額は588万円で、昨夏に比べて15万円増加。
- 現在利用している金融商品は、「銀行預金」、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」の順。今後増やしたい金融商品は、「銀行預金」、「投資信託」、「ゆうちょ銀行貯金」の順。
- 貯蓄する際重視する点は「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「利回りが良い」、「預け入れ引き出しが自由」の順。

5. ローン等の利用

- ローン等の利用者は28.2%で、平均借入額は1,146万円。
- 利用目的は「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「教育資金」の順。
- 借入先は「銀行」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「銀行以外の金融機関」の順。

6. 夏季ボーナス

- 夏季ボーナスの予想は、3年連続で「減りそう」が「増えそう」を上回った。県内企業の業況に改善の動きがみられるものの、勤労者は今夏のボーナス支給について慎重な見方をしている様子が窺われる。
- 平均手取り予想額は39万2千円と、昨夏に比べて1万5千円の増加。
- 使いみちは「貯蓄」が最も多く、以下、「買物」、「旅行・レジャー」、「ローン返済」の順。

7. お 中 元

- お中元を贈る予定者は、全体の 57.1%。贈る件数は「3～5件」が最も多く、平均件数は 3.8 件で昨夏を上回る。
- 1 件あたりの単価は、「3,000 円程度」が最多。平均単価は 3,973 円（昨夏 3,955 円）、平均予算総額は 15,116 円（同 14,256 円）と、ともに昨夏に比べて増加。
- 贈りたい商品は「ビール」（含むビール券）が最多で、以下、「お菓子」、「食用油」、「ハム」、「果物」の順。

8. 夏休みの過ごし方

- 「日帰り旅行」が最も多く、以下、「国内宿泊旅行」、「スポーツ・健康づくり」、「帰郷」、「海外旅行」の順。
- 「国内宿泊旅行」の宿泊日数は「1泊」が 5 割強を占め、平均宿泊日数は 1.6 泊と昨夏（1.6 泊）と変わらず。

● 調査実施要領

調査対象：県内の勤労者 1,088 名

調査方法：当行の営業店を通じ対象者に依頼

回答者数：1,063 名（回答率 97.7%）

調査時期：平成 30 年 5 月下旬～ 6 月上旬

〈 回 答 者 内 訳 〉

内訳	項 目	回答者数	構成比
年 代 別	20 代	238人	22.4%
	30 代	254	23.9
	40 代	254	23.9
	50 代 以 上	316	29.7
家 族	既 婚	686	64.5
	未 婚	375	35.3
性 別	男 性	530	49.9
	女 性	533	50.1
合 計		1,063	100.0

※ 合計には年代、家族構成未回答者を含む

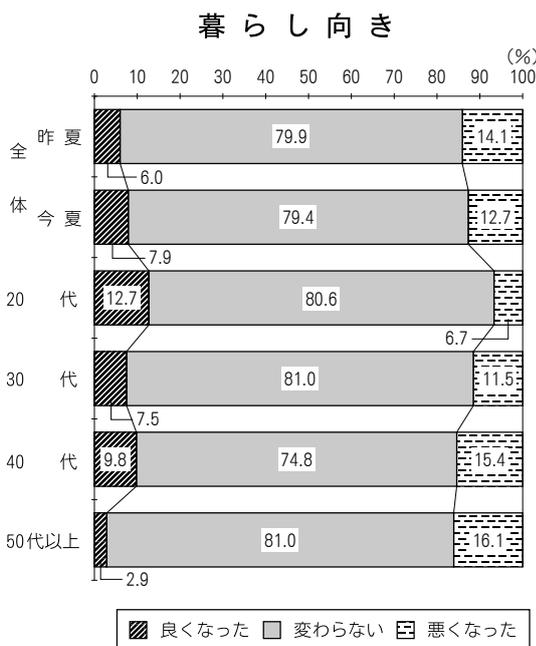
1 家計の状況

暮らし向きは緩やかながら上向き

1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が7.9%、「悪くなった」が12.7%、「変わらない」が79.4%となった。この結果、「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△4.8となり、昨夏(△8.1)と比べて3.3ポイント改善した。

県内景気は、機械工業が増勢を維持するなど生産面を中心に緩やかな回復が続いている。このようななか、勤労者の暮らし向きも緩やかながら上向いてきている。

年代別にみると、「良くなった」の回答比率は20代が12.7%に達している一方、50代以上は2.9%にとどまっている。また、「悪くなった」の回答比率は40代と50代以上で高くなっており、若年層に比べて中高年層で暮らし向きの改善実感が乏しい状況にある。

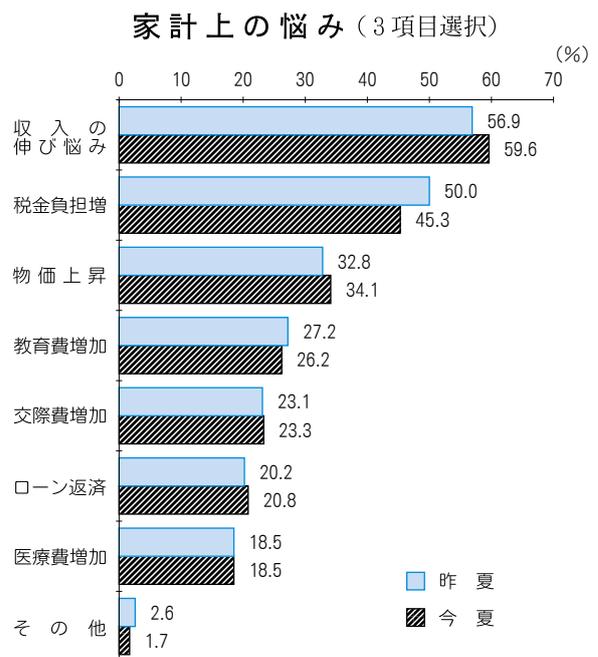


家計上の悩みは「収入の伸び悩み」が最多

家計上の悩み(3項目選択)は、「収入の伸び悩み」が最も多く、以下、「税金負担増」、「物価上昇」と続いた。

上位項目をみると、2位の「税金負担増」は昨夏に比べて比率が低下したものの、1位の「収入の伸び悩み」と3位の「物価上昇」はそれぞれ上昇した。ガソリン価格など生活必需品の物価が上昇傾向にある一方で、収入の伸びは限定的であり、そのことが家計上の悩みとなっている状況が窺われる。

上記以外の項目をみると、「教育費増加」、「その他」で比率が低下した一方、「ローン返済」、「交際費増加」は若干上昇した。また、「医療費増加」は横ばいであった。



2 耐久消費財の購入状況

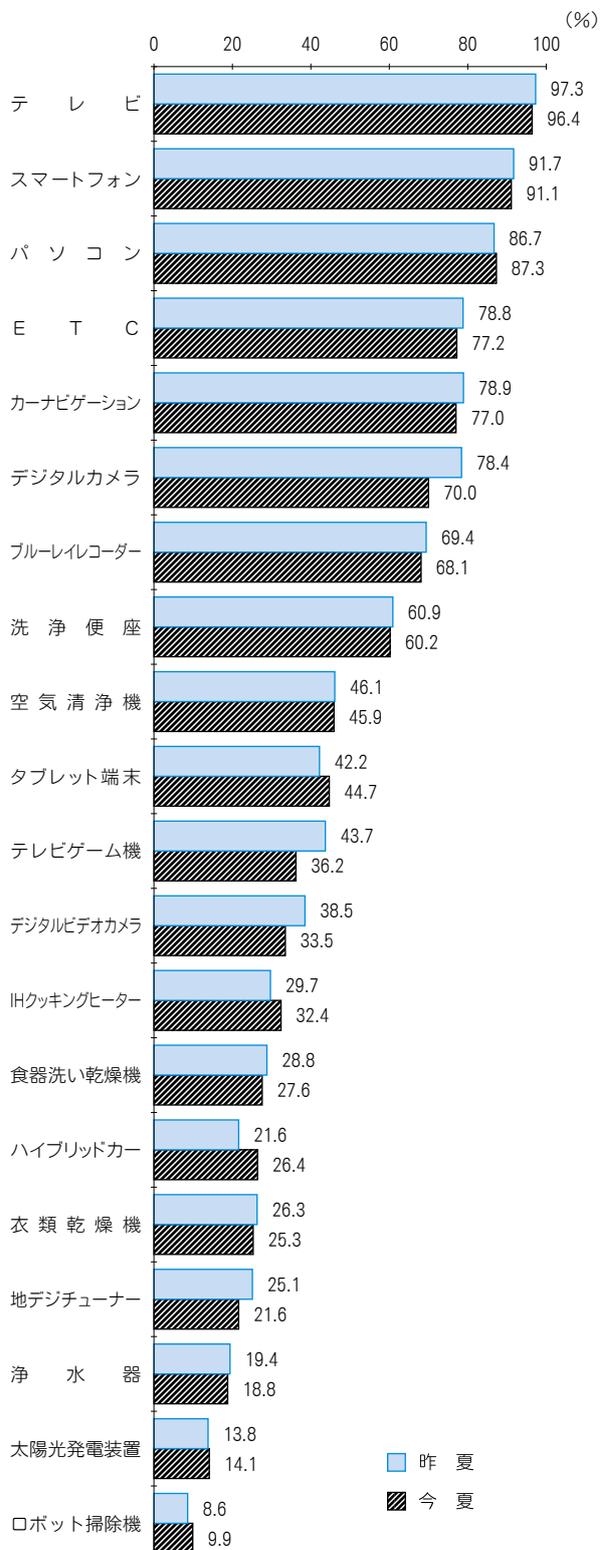
テレビ、スマートフォンの普及率が9割超

耐久消費財のうち、主要家電品など20品目についてその普及状況を見ると、「テレビ」(96.4%)、「スマートフォン」(91.1%)、「パソコン」(87.3%)、「ETC」(77.2%)の順となった。上位2品目は普及率が9割を超えており、同品目が広く普及していることを示している。

昨夏と比較すると、「スマートフォン」は、0.6ポイント低下した。年代別にみると、50代以上で上昇しており、普及が進んでいる様子が見られる。一方、20代、30代、40代は低下したものの、普及率はそれぞれ95%前後と高水準にある。また、「デジタルカメラ」は、このところ低下が続いており、今回調査においても8.4ポイント下落した。スマートフォンの普及およびカメラ機能の向上により、同品目の使用機会の減少が考えられる。

その他の品目では、「テレビゲーム機」、「デジタルビデオカメラ」、「地デジチューナー」などが低下した一方、「ハイブリッドカー」、「IHクッキングヒーター」、「タブレット端末」などは上昇した。

耐久消費財の普及状況



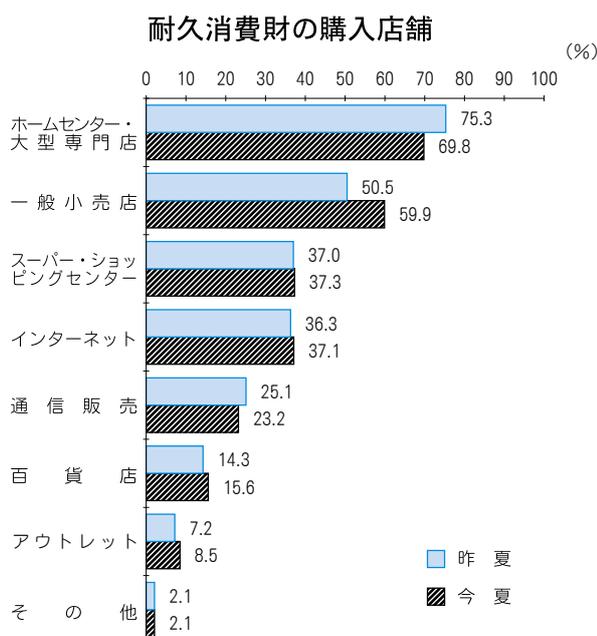
一般小売店の比率が上昇

耐久消費財を購入した店舗（複数回答）は、「ホームセンター・大型専門店」が最も多く、以下、「一般小売店」、「スーパー・ショッピングセンター」、「インターネット」、「通信販売」の順となった。

「ホームセンター・大型専門店」の購入比率は5.5ポイント低下したものの、昨夏に続いて1位となっており、耐久消費財は主に大型店で購入されている。

2位以下をみると、「一般小売店」の上昇が目立っている。年代別にみると、50代以上（46.3%→60.4%）および30代（49.8%→61.8%）で大幅に上昇している。また、耐久消費財の購入手段として一般化してきている「インターネット」も、昨夏に比べて比率が若干上昇した。年代別にみると、30代が43.7%と最も高くなっている。

その他の項目では「通信販売」の比率が低下した一方、「百貨店」、「アウトレット」、「スーパー・ショッピングセンター」は上昇した。

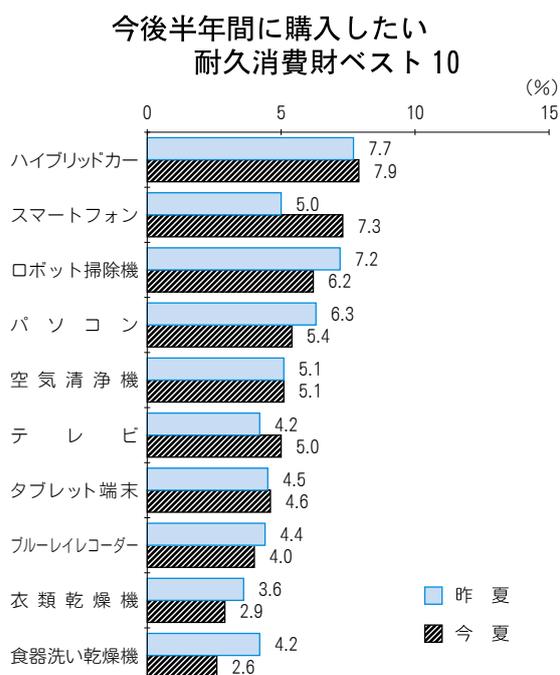


購入希望は「ハイブリッドカー」が最多

今後半年以内に購入希望のある耐久消費財（複数回答、3品目以内）をみると、1位は「ハイブリッドカー」で、以下、「スマートフォン」、「ロボット掃除機」、「パソコン」、「空気清浄機」、「テレビ」の順となった。

上位品目の動きをみると、「ハイブリッドカー」が昨夏と比べて0.2ポイント上昇し、引き続き1位となっている。2位は「スマートフォン」で昨夏比+2.3ポイントと比較的大きな上昇幅となった。年代別にみると、50代以上が+4.9ポイントと大幅に上昇している。「ロボット掃除機」は1.0ポイント低下したものの3位となっており、年代別にみると40代で購入意欲が高くなっている。また、6位の「テレビ」が0.8ポイント上昇している。サッカーワールドカップや2年後の東京オリンピック・パラリンピックの開催を前に、買い替え需要が高まってきていると考えられる。

上記品目以外の動きをみると、「食器洗い乾燥機」、「パソコン」、「衣類乾燥機」などの比率が低下した一方、「タブレット端末」は上昇し、「空気清浄機」は横ばいであった。



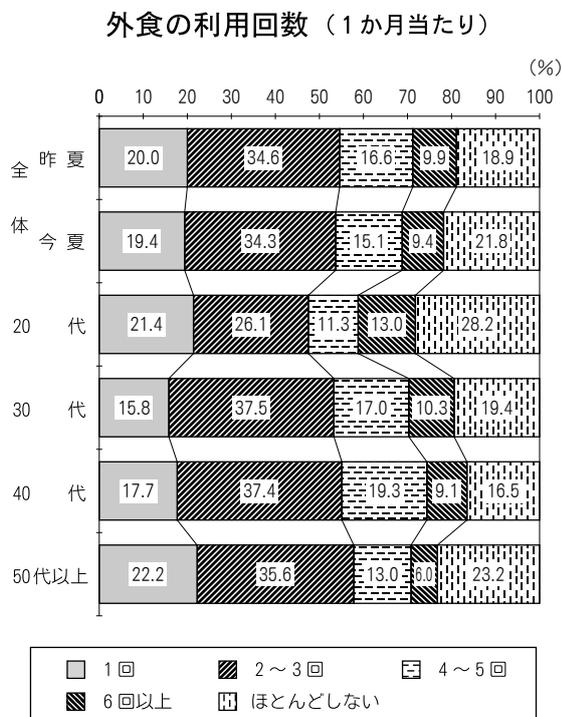
3 外 食

外食の利用回数は月2～3回が最多

家族での外食の利用状況を見ると、全体の78.2%が毎月1回以上利用しており、その比率は昨夏（81.1%）から2.9ポイント低下した。

内訳をみると、「月2～3回」が34.3%と最多で、以下、「ほとんどしない」（21.8%）、「月1回」（19.4%）、「4～5回」（15.1%）、「6回以上」（9.4%）と続いており、月3回以内の利用が過半数を占めた。また、平均利用回数は2.3回で、昨夏（2.4回）から若干減少した。

なお、年代別の平均利用回数は、30代、40代が2.5回となっており、以下、20代が2.2回、50代以上が2.1回と続いている。



利用店舗はファミリーレストランがトップ

よく利用する店舗（3項目以内）は、「ファミリーレストラン」が最多で、以下、「日本料理店」、「ファーストフード」、「大衆食堂」と続いた。昨夏と比較すると、「中華料理店」、「西洋料理店」、「日本料理店」、「大衆食堂」の比率が上昇した一方、「ファミリーレストラン」、「ファーストフード」は低下した。

なお、「その他」の比率は44.4%と半数近くを占めているが、同項目の回答（自由記述）をみると回転寿司とラーメンショップが多かった。それぞれ、手軽に、短時間で、かつ比較的安価に利用できることが支持されているとみられる。

よく利用する外食店舗（3項目選択） (%)

	昨夏	今 夏				
	全体	全体	20代	30代	40代	50代以上
ファミリーレストラン	69.3	61.3	65.5	69.3	60.6	52.5
日本料理店	31.3	31.6	26.1	24.8	29.5	43.0
ファーストフード	31.5	29.2	35.3	35.4	33.9	15.8
大衆食堂	22.9	23.2	25.6	24.8	20.1	22.5
中華料理店	18.4	23.0	23.5	20.1	20.1	26.9
西洋料理店	13.7	16.3	18.9	13.4	15.4	17.4
その他	47.5	44.4	40.3	47.2	50.0	40.5

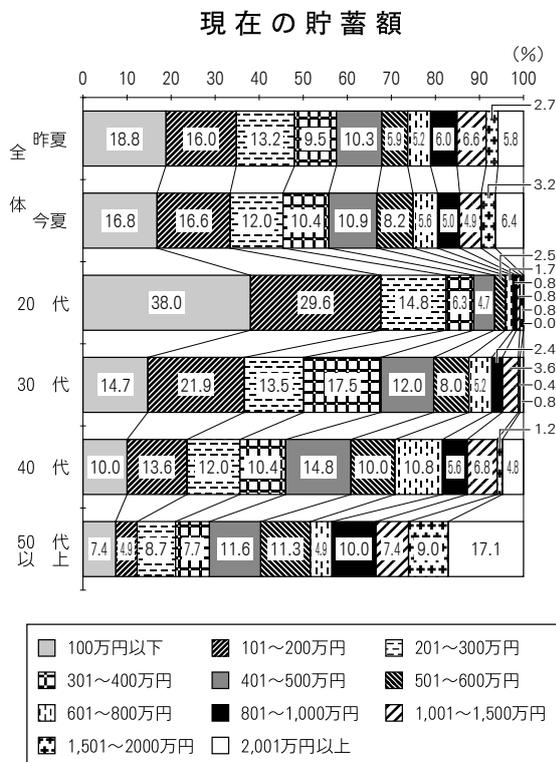
4 貯蓄

平均貯蓄額は588万円

現在の貯蓄額の分布をみると、「100万円以下」が最多で、以下、「101万円～200万円」、「201万円～300万円」、「401万円～500万円」、「301万円～400万円」の順となった。

また、平均貯蓄額は588万円（昨夏573万円）で、昨夏に比べて15万円増加した。

年代別の平均貯蓄額をみると、20代が200万円（昨夏比+12万円）、30代が367万円（同△72万円）、40代が589万円（同+56万円）、50代以上が1,061万円（同+80万円）となっている。

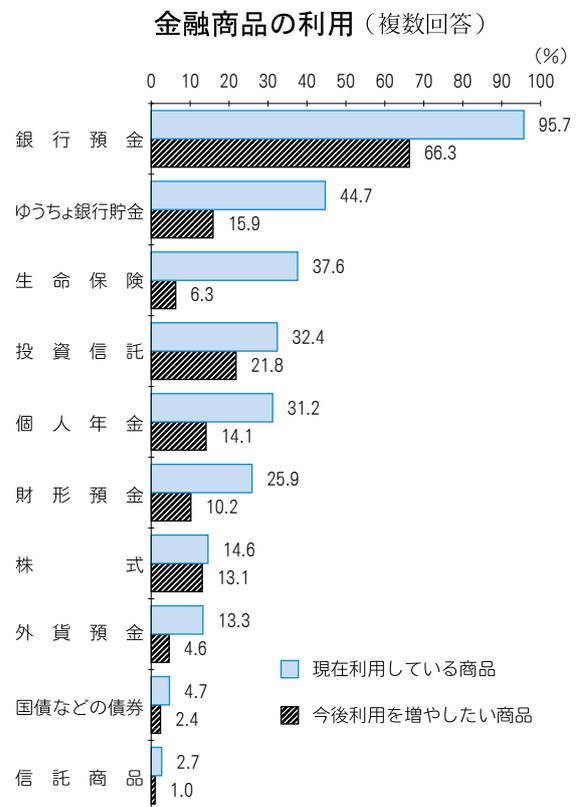


利用している金融商品のトップは銀行預金

利用している金融商品（複数回答）は、「銀行預金」が95.7%と最も多く、以下、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」、「投資信託」、「個人年金」、「財形預金」の順となった。

利用率を昨夏と比較すると、「銀行預金」が低下した以外は、すべての商品で比率が上昇した。特に、「外貨預金」、「投資信託」、「ゆうちょ銀行貯金」、「個人年金」の上昇が目立っている。

年代別に利用率をみると、「銀行預金」が各年代とも90%超となっている。「株式」は年代が高くなるに連れて利用率が高くなっているが、「財形預金」は年代が低いほど利用率が高くなっている。また、「投資信託」、「個人年金」、「外貨預金」はいずれの年代においても昨夏と比べて利用率が上昇している。



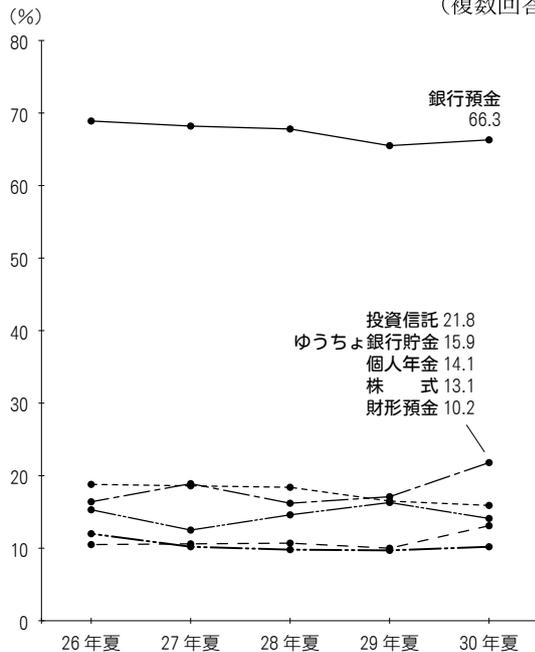
今後増やしたい金融商品も銀行預金が最多

今後増やしたい金融商品（複数回答）は、「銀行預金」が最多で、以下、「投資信託」、「ゆうちょ銀行貯金」、「個人年金」、「株式」の順となった。

昨夏と比較すると、「投資信託」、「株式」、「銀行預金」などの比率が上昇した一方、「個人年金」、「外貨預金」、「生命保険」などの比率は低下した。

年代別にみると、いずれの年代においても「銀行預金」の比率が最多となっている。また、昨夏と比較すると、20代で「株式」の上昇、「個人年金」の低下が、30代で「投資信託」、「財形預金」の上昇が、40代で「銀行預金」、「株式」の上昇、「個人年金」の低下が、50代以上で「銀行預金」の低下が各々目立っている。

今後増やしたい金融商品の推移
(複数回答)



重視する点は「元金保証」が最多

貯蓄をする際、重視する点（3項目選択）は、「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「利回りが良い」、「預け入れ引き出しが自由」、「値上がり期待できる」、「利用金融機関が自宅から近い」の順となった。

昨夏と比較すると、「値上がり期待できる」、「利回りが良い」などが上昇した一方、「元金の保証があり安心」、「預け入れ引き出しが自由」などは低下した。堅調な株式市場を反映して、安全性、流動性よりも収益性を重視する傾向が窺われた。

上位項目を年代別にみると、「元金の保証があり安心」は年代が高くなるに連れて回答比率も高くなっているが、昨夏と比べるとすべての年代で比率が低下している。一方、「値上がり期待できる」は昨夏と比べるとすべての年代で比率が上昇しており、特に30代で5.5ポイント、50代以上で7.3ポイントの大幅な上昇となっている。

貯蓄する際重視する点（3項目まで選択）

	全体	20代	30代	40代	50代以上	昨夏順位
元金の保証があり安心	63.1	53.8	61.8	65.0	69.9	1
利回りが良い	46.4	46.2	48.0	41.7	49.1	3
預け入れ引き出しが自由	44.4	50.0	43.3	44.1	41.1	2
値上がり期待できる	26.5	29.0	28.3	24.4	25.0	4
利用金融機関が自宅から近い	20.7	19.3	22.0	18.9	22.2	5
利用金融機関のサービスが良い	14.1	13.0	14.6	14.6	14.2	6
勤務先が利用金融機関と取引している	7.9	8.0	8.3	9.8	6.0	7
利用金融機関が勤務先から近い	6.6	5.9	6.7	7.1	6.6	8
利用金融機関に友人、知人がいる	4.5	4.2	4.7	4.3	4.7	9
利用金融機関が集金にきてくれる	2.4	0.4	1.6	2.8	4.4	10
その他	0.8	0.0	0.4	1.2	1.3	—

5 ローン等の利用

平均借入額は1,146万円

ローン等の利用状況を見ると、利用者は28.2%で、平均借入額は1,146万円となった。

利用目的（複数回答）は、「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「教育資金」と続いた。

昨夏と比較すると、利用者の比率は変わらず、平均借入額は79万円増加した。また、利用目的では、「自動車・家電品の購入」、「教育資金以外の生活資金」、「その他」の比率が上昇した反面、「土地・住宅の購入」、「財テク資金」、「旅行・レジャー」、「教育資金」は低下した。

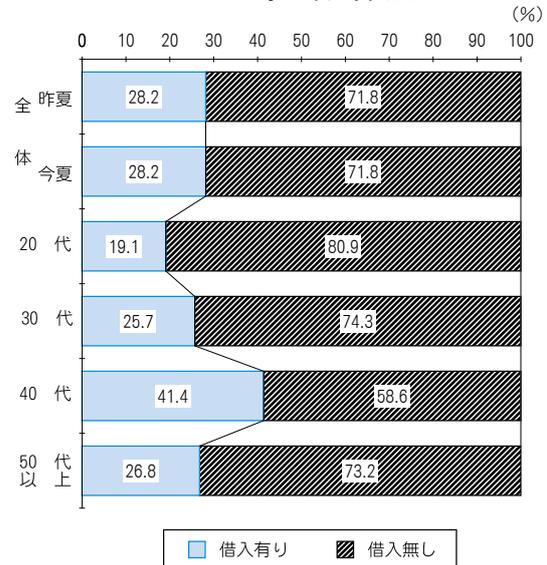
一方、借入先（複数回答）は、「銀行」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「銀行以外の金融機関」の順となった。昨夏と比較すると、「銀行」、「勤務先」の比率が上昇した一方、「銀行以外の金融機関」、「月賦・クレジット会社」、「政府系金融機関」、「その他」は低下した。

これらを年代別にみると、ローン利用者はマイホーム需要が高まる40代が最も多く、以下、50代以上、30代、20代の順となっており、平均借入額は、20代621万円、30代1,267万円、40代1,424万円、50代以上1,021万円となった。

また、利用目的は、20代で「自動車・家電品の購入」、30代以上で「土地・住宅の購入」がそれぞれ最多となっている。

なお、借入先は、すべての年代で「銀行」が1位、「月賦・クレジット会社」が2位となっているが、3位は20代、40代で「銀行以外の金融機関」、30代、50代以上で「政府系金融機関」となっている。

ローン等の利用状況



ローン等の借り入れ先・利用目的

(複数回答)

(%)

	全体	20代	30代	40代	50代以上	
利用目的	土地・住宅の購入	59.8	20.0	50.8	69.9	75.9
	自動車・家電品の購入	35.1	62.2	47.7	24.3	24.1
	教育資金	7.1	4.4	4.6	7.8	9.6
	旅行・レジャー	3.0	6.7	1.5	2.9	2.4
	教育資金以外の生活資金	3.0	0.0	1.5	2.9	6.0
	財テク資金	0.3	0.0	0.0	0.0	1.2
	その他	3.7	6.7	1.5	3.9	3.6
借入先	銀行	71.3	48.9	66.2	78.6	78.3
	月賦・クレジット会社	15.2	24.4	18.5	9.7	14.5
	銀行以外の金融機関	9.5	20.0	6.2	8.7	7.2
	住宅金融支援機構等 政府系金融機関	6.8	2.2	7.7	5.8	9.6
	勤務先	3.4	0.0	1.5	2.9	7.2
	その他	1.7	6.7	1.5	0.0	1.2

6 夏季ボーナス

手取り額予想は減額が増額を上回る

昨夏と比べた今夏のボーナス（手取り額）の予想は、「増えそう」が10.9%、「減りそう」が19.3%となり、3年連続で「減りそう」が「増えそう」を上回った。

両比率の差（「増えそう」－「減りそう」）は、△8.4と昨夏の△5.2から3.2ポイント悪化した。県内企業の業況に改善の動きがみられるものの、勤労者は今夏のボーナス支給について慎重な見方をしている様子が窺われる。

年代別にみると、すべての年代で「減りそう」の比率が「増えそう」の比率を上回った。特に20代では「減りそう」の回答比率が10.9ポイントと大幅に上昇し、5年ぶりに「減りそう」の比率が「増えそう」の比率を上回った。また、30代、40代でも「減りそう」の回答比率が上昇し、両比率の差が拡大した。

平均手取り予想額は39万2千円

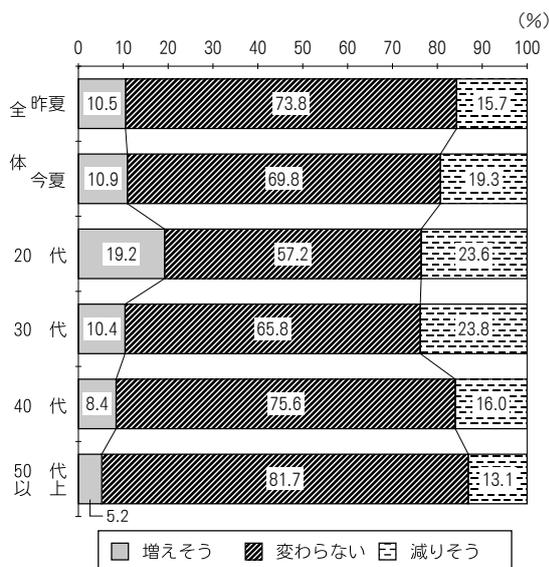
手取り予想額は、「1～20万円」が最も多く、以下、「21～30万円」、「31～40万円」、「41～50万円」の順となった。

昨夏と比較すると、「51～70万円」、「101万円以上」、「71～100万円」の比率が上昇、「21～30万円」、「41～50万円」、「1～20万円」、「31～40万円」の比率が低下した。

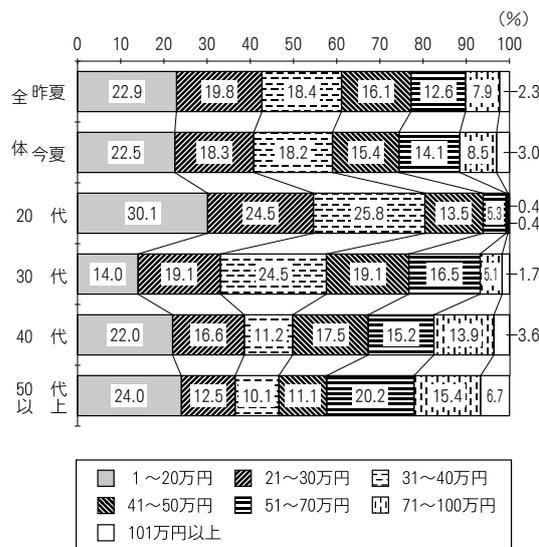
この結果、平均手取り予想額は39万2千円（昨夏37万7千円）と、昨夏に比べて1万5千円の増加となった。

年代別にみると、20代が28万1千円（昨夏28万8千円）、30代が39万5千円（同38万5千円）、40代が43万円（同40万2千円）、50代以上が46万6千円（同43万3千円）で、昨夏比では、20代が7千円の減少となった一方、30代、40代、50代以上が各々1万円、2万8千円、3万3千円の増加となっている。

夏季ボーナス増減予想



ボーナス手取り予想額



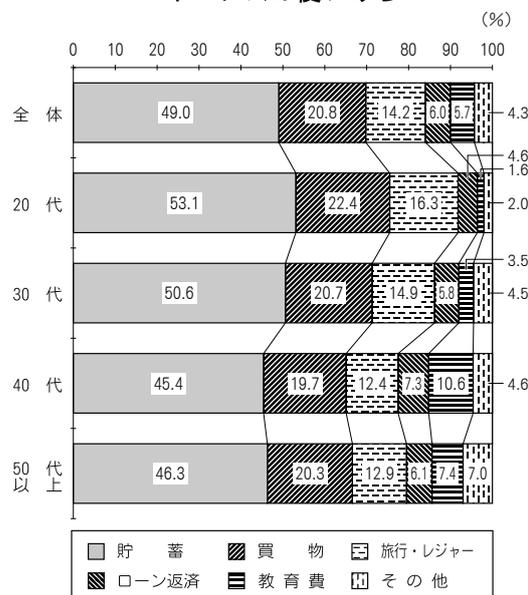
「貯蓄」の配分割合が半数近くを占める

ボーナスの使いみちは、「貯蓄」の比率が最も高く、次いで「買物」、「旅行・レジャー」、「ローン返済」となった。「貯蓄」の配分割合は、引き続き半数近くを占めている。

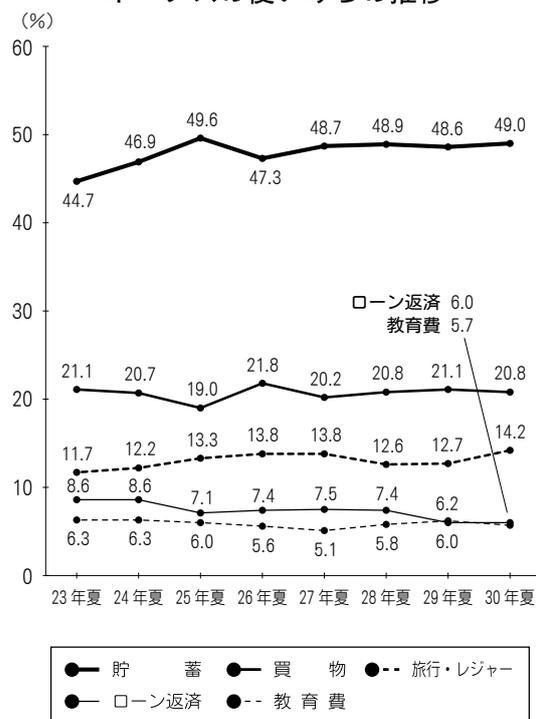
昨夏と比較すると、「旅行・レジャー」、「貯蓄」の比率が上昇、「ローン返済」は横ばい、「教育費」、「買物」は低下した。

年代別にみると、各年代とも上位3項目は「貯蓄」、「買物」、「旅行・レジャー」の順となったが、4位は20代、30代が「ローン返済」、40代、50代以上が「教育費」となった。昨夏と比べると、30代、40代で「旅行・レジャー」が比較的大きな上昇幅となった一方で、30代で「貯蓄」、40代で「教育費」の低下が目立っている。

ボーナスの使いみち



ボーナスの使いみちの推移



7 お中元

贈る件数は平均 3.8 件

今夏、お中元を贈る予定のある人は 57.1% で、昨夏 (60.6%) と比べて低下した。

贈る件数は「3～5 件」が最も多く、以下、「2 件以下」、「6～9 件」、「件数未定」、「10 件以上」の順となった。昨夏と比較して「2 件以下」が低下した一方、「3～5 件」、「6～9 件」が上昇し、平均贈答件数は 3.8 件 (昨夏 3.6 件) と昨夏を上回った。

年代別にみると、贈る予定のある人の比率は 20 代が 33.9%、30 代が 45.6%、40 代が 63.1%、50 代以上が 78.8% となった。昨夏と比較してすべての年代で低下し、特に 20 代、50 代以上の低下幅が比較的大きかった。

また、贈る件数は、20 代、30 代で「2 件以下」が、40 代、50 代以上で「3～5 件」がそれぞれ最も多くなっており、年代別の平均贈答件数は、20 代が 2.8 件、30 代が 3.1 件、40 代が 3.7 件、50 代以上が 4.4 件となった。

平均単価は 3,973 円、平均予算は 15,116 円

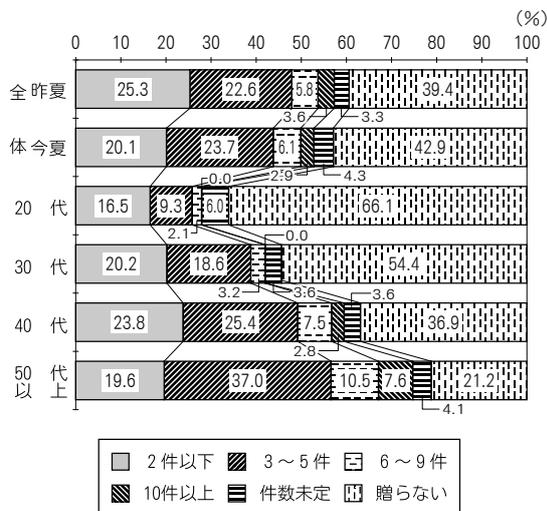
1 件あたりの単価は、「3,000 円程度」が 48.6% と最も多く、次いで、「5,000 円程度」が 38.5% となっており、この両方で 8 割超を占めた。

昨夏と比較すると、「2,000 円程度」、「5,000 円程度」、「7,000 円程度」、「15,000 円以上」が低下した一方、「3,000 円程度」、「10,000 円程度」は上昇しており、平均単価は 3,973 円と、昨夏 (3,955 円) に比べて 18 円上昇した。

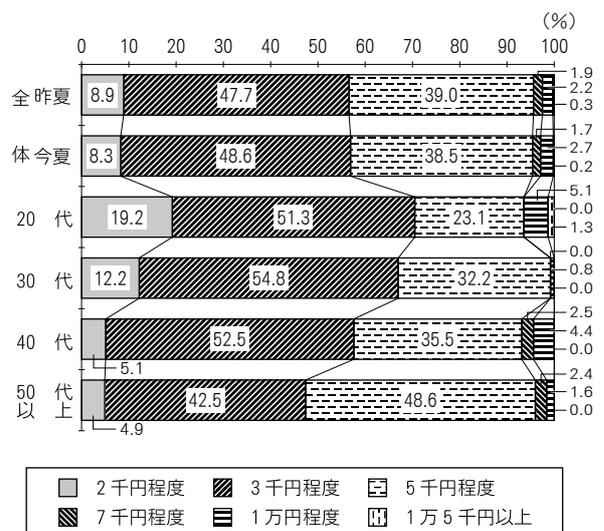
このように、平均贈答件数が前年を上回り、平均単価も上昇したことから、平均予算総額は 15,116 円と昨夏 (14,256 円) に比べて 860 円増加した。

なお、年代別の平均単価は、20 代が 3,783 円、30 代が 3,588 円、40 代が 4,062 円、50 代以上が 4,131 円となっており、平均予算総額は、各々 10,606 円、11,138 円、15,048 円、18,198 円となった。

お中元を贈る件数



お中元の相場
(1 件当たり平均単価)



「食用油」、「お菓子」の支持率が上昇

お中元に贈りたい商品（5品目まで選択）は、「ビール」（含むビール券、以下同じ）が最多で、以下、「お菓子」、「食用油」、「ハム」、「果物」の順となった。上位品目を昨夏と比較すると、「ビール」が1位を維持した一方、「ハム」（昨夏2位）が4位に順位を落とすなどの変動がみられた。

支持率をみると、定番品の「食用油」（昨夏比+2.9ポイント）、「お菓子」（同+2.7ポイント）など、10品目が上昇した。一方、「清涼飲料水」（同△3.9ポイント）、「石鹸・洗剤」（同△3.3ポイント）など、同じく10品目が低下した。

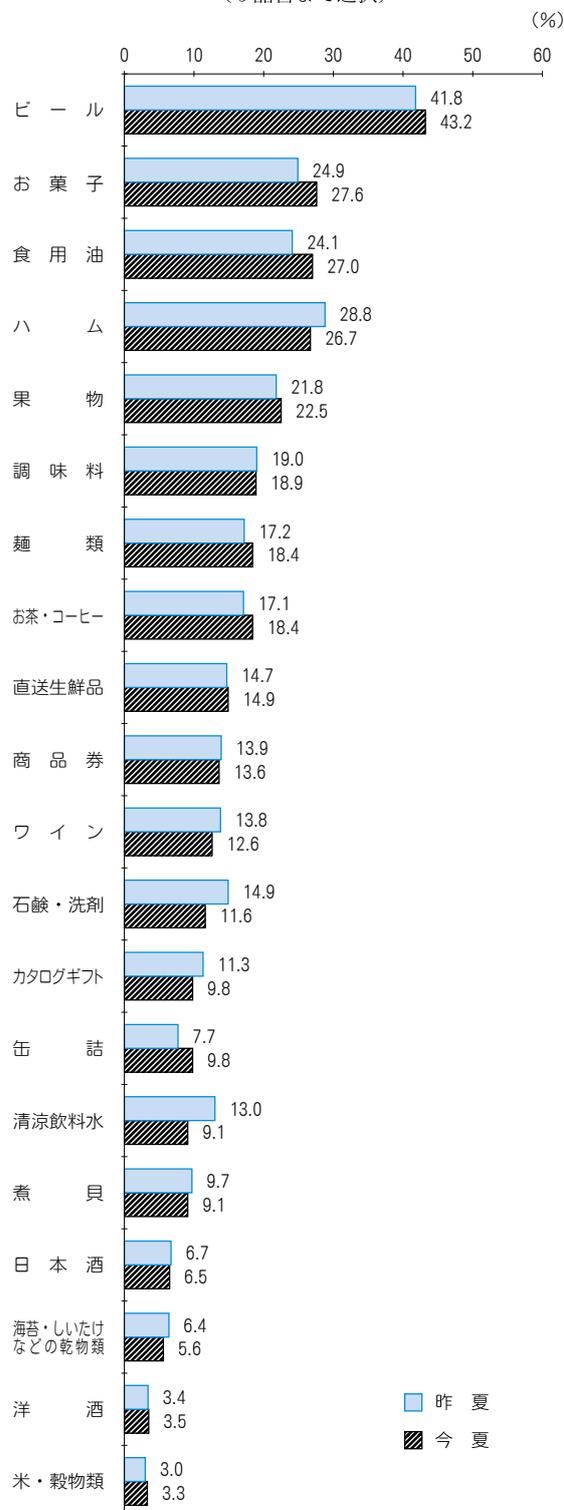
年代別にみると、各年代とも1位は「ビール」となっている。支持率を昨夏と比べると、20代で「お菓子」、「食用油」の上昇、30代で「お菓子」の上昇および「調味料」の低下、40代で「食用油」の上昇および「清涼飲料水」の低下が目立っている。

お中元に贈りたいものベスト5

順位	20代	30代	40代	50代以上
1	ビール (含むビール券)	ビール (含むビール券)	ビール (含むビール券)	ビール (含むビール券)
2	お菓子	お菓子	食用油	ハム
3	食用油	食用油	ハム	果物
4	ハム 果物	ハム	お菓子	お菓子
5		麺類	調味料	食用油

お中元に贈りたいもの

（5品目まで選択）



8 夏休みの過ごし方

「スポーツ・健康づくり」の比率が上昇

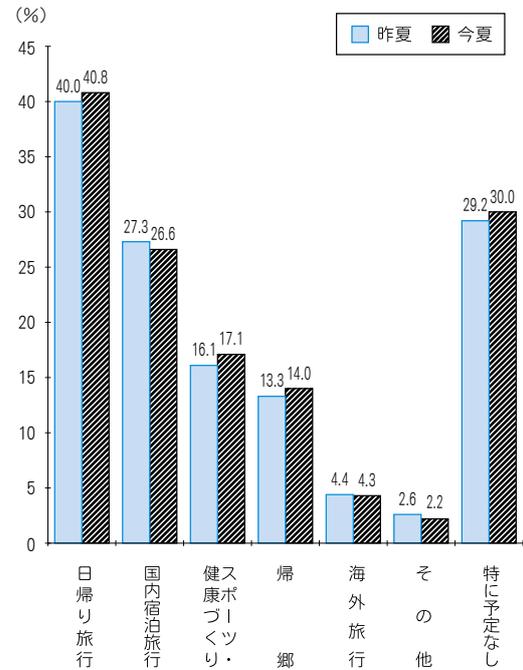
夏休みの過ごし方（複数回答）は、「日帰り旅行」が40.8%を占め最多となり、以下、「国内宿泊旅行」、「スポーツ・健康づくり」、「帰郷」、「海外旅行」の順となった。なお、「特に予定なし」は、30.0%となっている。

昨夏と比較すると、「スポーツ・健康づくり」（昨夏比+1.0ポイント）、「日帰り旅行」・「特に予定なし」（いずれも同+0.8ポイント）などが上昇した一方、「国内宿泊旅行」（同△0.7ポイント）などが低下した。なお、健康志向の高まりを背景に、休暇の過ごし方として「スポーツ・健康づくり」が近年上昇傾向にある。

年代別にみると、20代、30代、40代で「日帰り旅行」が、50代以上で「特に予定なし」が最多となった。なお、50代以上では「特に予定なし」が年々低下している一方、「日帰り旅行」、「帰郷」は上昇傾向にあり、休暇を活動的に過ごすシニア世代が増加している。

「国内宿泊旅行」の宿泊日数をみると、「1泊」が52.6%を占め、以下、「2泊」（37.9%）、「3

夏休みの過ごし方（複数回答）



泊」（8.3%）、「4泊以上」（1.2%）となった。平均宿泊日数は1.6泊で、昨夏（1.6泊）と変わらなかった。

夏休みの過ごし方（複数回答）

	日帰り旅行	国内宿泊旅行	スポーツ・健康づくり	帰郷	海外旅行	その他	特に予定なし
20代	46.6	28.6	21.8	12.2	5.5	0.8	26.5
30代	40.6	28.0	16.1	21.3	3.5	2.4	26.0
40代	43.3	27.2	15.4	11.8	6.3	2.4	26.4
50代以上	34.5	23.7	15.8	11.4	2.5	2.8	38.9
全体	40.8	26.6	17.1	14.0	4.3	2.2	30.0

山梨中銀 自分にピッタリのコースではじめよう!

大好評につき
第2弾

資産づくり応援!キャンペーン



期間 平成30年6月6日(水)~平成30年9月30日(日)

対象 対象商品をご契約(預入)いただいた個人のお客さま(新規または増額の契約(預入)を対象とさせていただきます)

コツコツ!
応援コース

まとめて!
応援コース

WEBでラクラク!
応援コース

インターネット投信・インターネットバンキング限定

特典
1 先着4,000名様に
プレゼント!

保冷温
スクエアバッグ



●キャンペーン期間中、景品はお一人さまおひとつとさせていただきます。
(色はご希望にそえない場合がございます)

特典
1

手数料
キャッシュバック

●ノーロード商品は特典1の対象外となり、特典2のみ対象となります。
●キャンペーン期間中に解約の場合は対象外になります。

さらに!

特典
2

話題の人気商品が
当たるダブルチャンス! 合計10名様に抽選でプレゼント!

1等
ダイソン
布回クリーナー
V7マットレス
(HH11COM)



2名様

2等
バルムューダ
スチームオーブン
トースター
(ブラック)



3名様

3等
JBL
AI(人工知能)搭載
スマートスピーカー
(JBL LINK 10ホワイト)



5名様

●対象商品ごとにキャンペーン期間中の累計取引金額に応じて抽選権をお付けいたします。応募のお手続きは不要です。●キャンペーン終了後、当行所定の方法により、厳正な抽選を行います。キャンペーン期間中に解約の場合、抽選権は無効となります。●色をお選びいただくことはできませんので、ご了承ください。●当選者の発表は景品の発送をもって代えさせていただきます。(平成30年12月中発送予定) ●転居先不明などで連絡が取れない場合は、当選を無効とさせていただきます。

さらに!

対象商品をご契約いただいたお客さまで
NISA・つみたてNISA口座を開設された方には

500円キャッシュバック! (平成30年12月中
入金予定)

株式会社山梨中央銀行 / 登録金融機関 関東財務局長(登金)第41号 / 加入協会 日本証券業協会

ホームページへアクセス

山梨中銀 検索



皆さまに役立つ情報を
いち早くお届けします。

LINE@

@yamanashibank



店頭またはATMコーナーに、
くわしいキャンペーン内容を記載した
リーフレットをご用意しております。

くわしくは山梨中央銀行の窓口 またはフリーダイヤルへどうぞ

0120-201862 照会コード 9

(受付時間)月曜日~金曜日 9:00~17:00(ただし、祝日・12/31~1/3は除きます。)

山梨中央銀行

https://www.yamanashibank.co.jp/
(平成30年6月6日現在)